

災害派遣ボランティア活動報告

さくら薬局 生駒俊明

4月20日～4月25日に東日本大震災の被災地である宮城県に九州山口薬剤師会チームとして参加しました。

私と延岡の黒木徳子先生、長崎の藤木和先生の3名が気仙沼市に派遣され、気仙沼では、3人がそれぞれ別々に分かれボランティア活動に当たりました。

皆様ご存知だと思いますが、今回の大震災による津波でほとんどの船(フェリー)がやられてしまい、大島に行く小型船が1隻だけしかありませんでした。

大島の人口は約5000人で、大震災前はフェリーが多くの人や車を運んでいました。

気仙沼まで1時間に1往復以上ありましたが、大津波による破損、炎上などで壊滅的な被害を受けておりました。

私は聖マリアンナ医科大学の医療スタッフ(Dr 2名、看護師2名他)と薬剤師は私と東京都薬の2名で気仙沼港から大島に渡り、被災地の人々の医療に携わりました。

そこでは、薬の仕分け・医師の処方サポート・服薬指導などが主な仕事でした。

現場では思った薬剤がなかったり規格違いだったりいろいろ大変でしたが、ぶっつけ本番でDrと話し合いながら処方内容を決定しました。

我々が日常行っている状態と少し違い、医療チームは1つにしっかりとまとまり、医療職種の違い、年齢、肩書き、性別などに捕われず、一人一人が持っている力を出し切り、最善の医療を提供する為に頑張りました。

また、診療の合間に避難所の方々といろいろお話をさせて頂き、「くちびるが荒れていて困っているので何とかして欲しい」「かかりつけ病院の専門外来が再開しているかどうか知りたい」などいろいろ要望や質問がありました。

東日本の被災地が完全に復旧するには住宅や仕事など社会資源の回復が必要です。

復興には、程遠くまだまだ時間がかかることを身をもって知らされました。

今回被災地のボランティア活動を行うに当たり、家族や会社のスタッフ、薬剤師会の皆様に協力して頂き、心から感謝しています。

私は幸運にも現地のボランティア活動に参加できましたが、参加できない方も同じ気持ちだと思います。

東日本復興のために、自分ができる事をこれからも継続的に行っていきます。

皆様の心が東日本の震災地に届き、一日も早く復興する事を心から願っています。

窓口の様子①



窓口の様子②



窓口の様子③

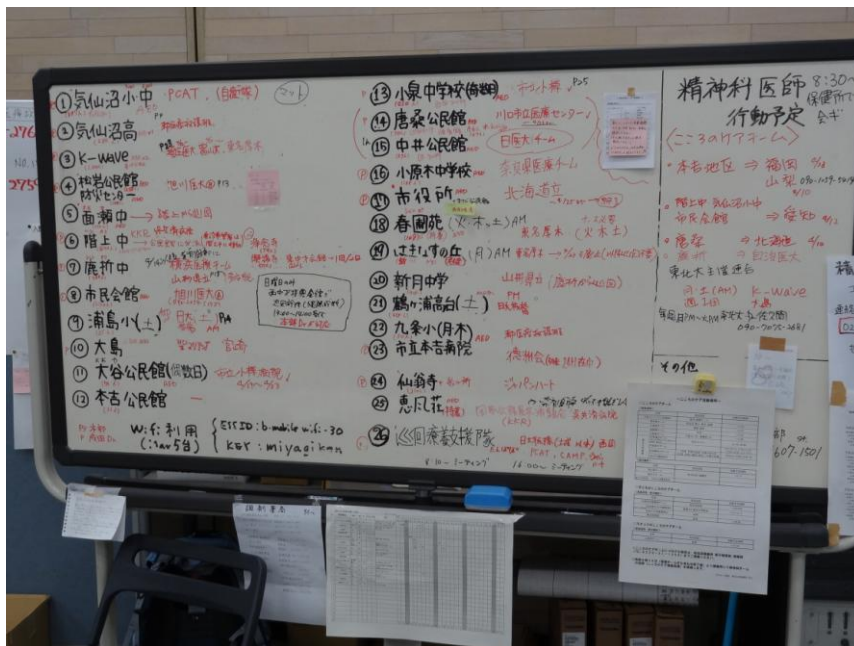


聖マリアンナ医科大のメンバー（医師、看護師、医療事務）



- ◆ 一緒に活動しました。

各避難所の医療チームが書かれたホワイトボード



会議の様子



薬品棚



- ◆ 段ボールを活用し作成しました。

陸前高田市 気仙中学校



陸前高田市 気仙小学校



九州山口薬剤師会・第9班メンバー（宮城県薬剤師会にて）

